

石
田
智
子

Tomoko ISHIDA
Exhibition

水潺潺

Mizusensen

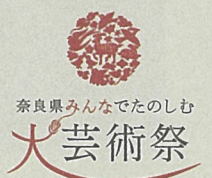
2024/9/7 sat-10/6 sun 匠の聚ギャラリー

共催 | 奈良トヨタグループ 奈良県川上村 一般財団法人かわかみ源流ツーリズム

制作・設営協力 | 佐藤正太郎(佐藤板金店)

後援 | 奈良県 朝日新聞奈良総局 産経新聞社 毎日新聞奈良支局 読売新聞奈良支局

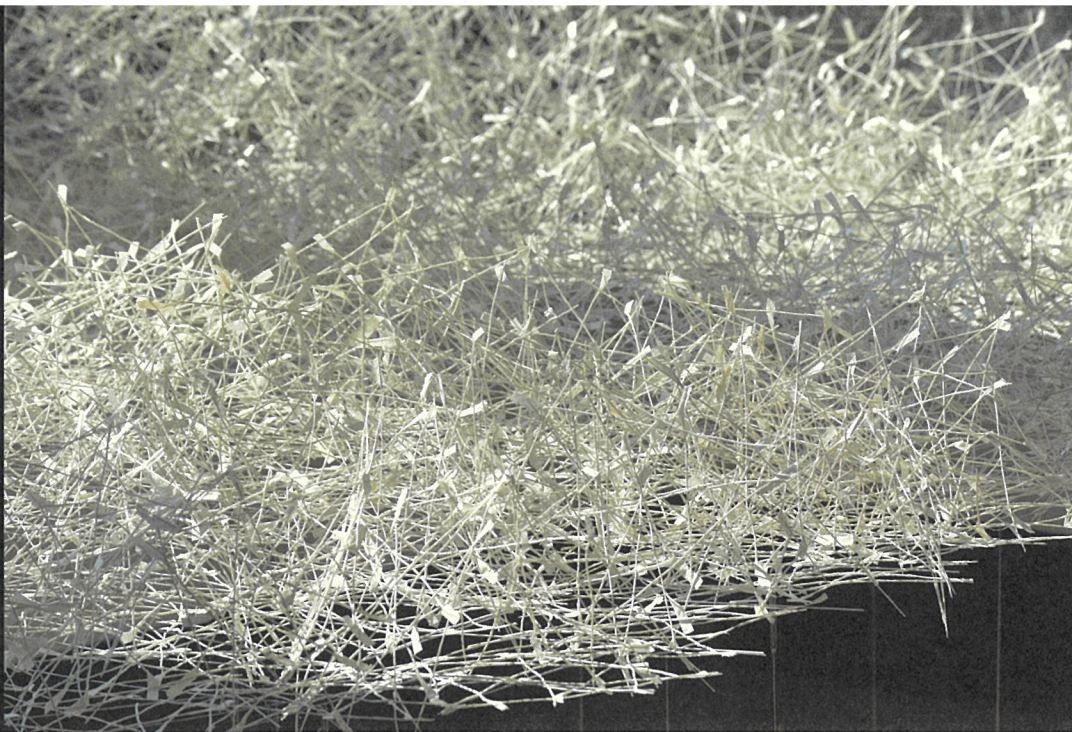
奈良新聞社 奈良テレビ放送 日刊自動車新聞社



《むすんでひらいて》部分 2020年 郡山市立美術館 (400×400×100cm)



《揺籃》2020年 郡山市立美術館 (700×400×120cm)



《おのずから》detail 2023年 KIITO (1600×550×100cm)

水潺潺

みずせんせん

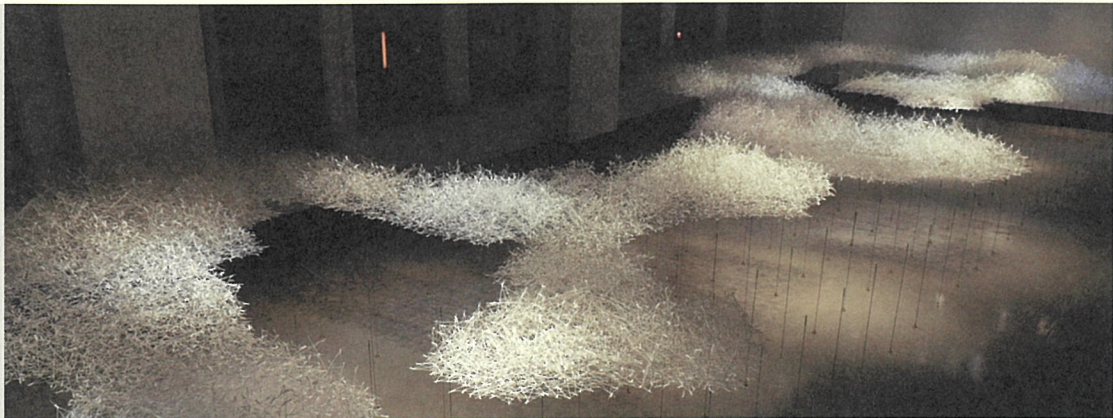
禅の言葉に「雲悠悠 水潺潺(くもゆうゆう みずせんせん)」がある。雲は消えたり現れたり自由自在に姿を変えて漂い、水も又高いところから低いところへと重力に任せ滞らずに流れていく。無心で執着のない無礙自在な心境や一所不住で一つのことを執着しない生き方を象徴する言葉だ。とは言え、岩にぶつかり、断崖絶壁を滑り落ちても計らいを交えないというのは難しく、恐怖や孤独との戦いでもある。

私は津波の経験はないが、「水」に恐怖を感じた体験は2つある。一つは海で泳いているときに身体が思うように動かなくなったこと。もう一つは震災による原発事故の直後、水道水が放射能汚染されているかもしれないと思う不安から、息をすることも食べることも恐怖に感じたことだ。思えば私自身が水の通り道。何ヶ月も続く石川県の断水生活にも心が痛む。

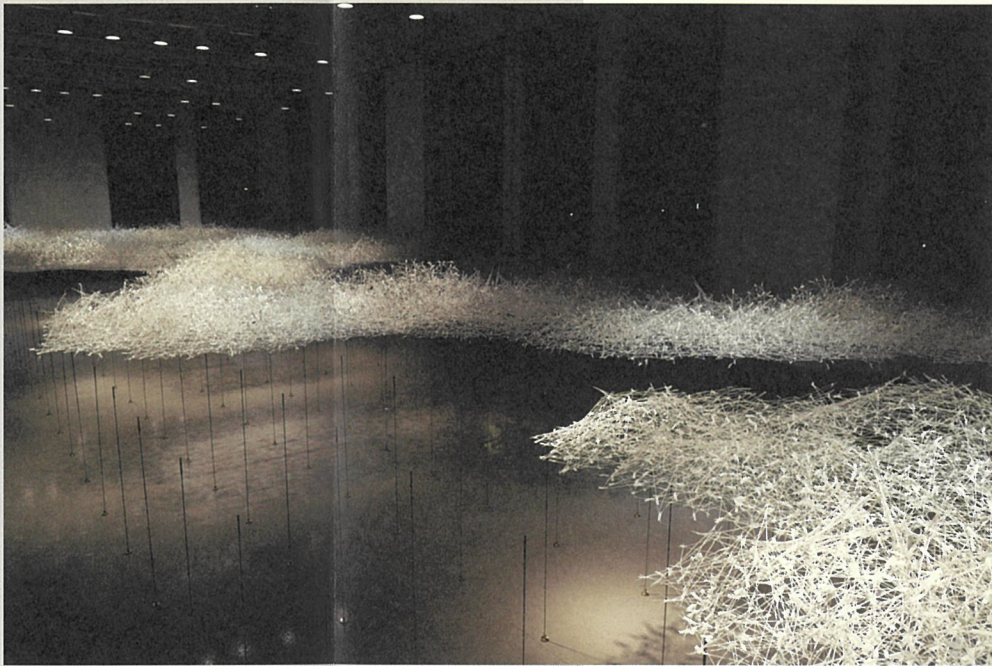
今回、奈良トヨタグループ様のお陰で川上村での展覧会のご縁を頂いた。「水源地の村づくり」に取組む川上村で、杉林に案内いただいて山の育て方、手入れの仕方を学び、長い年月をかけて育まれた土壌の良さを下草の様子から感じた。そして森と水の源流館では、吉野川・紀の川の流れによって和歌山県の海まで、各地域と連綿とつながりあっている事にも感銘を受けた。それは地下の水脈に意識を置きながらお寺の境内や裏山を整備してきた私自身、深く共感するコンセプトだった。

「水潺潺」が作品としてうまく表現できるはずもないが、せめて谷間を水がぬけていくように私自身がギャラリーの空間と戯れながら、できるだけ沢山の川上村の人たちと会話ができればと願っている。

石田智子



《おのずから》部分 2023年 KIITO (1600×550×100cm)



《おのずから》部分 2023年 KIITO (1600×550×100cm)

Profile

略歴

- 1958 大阪府生まれ
- 1982 京都精華大学美術学部染織科卒業
- 1991 福島県三春町・福聚寺に嫁ぎ、紙撚による作品制作を始める
- 現在 三春町在住

受賞歴

- 1995 「国際掌中新立体造形展」準大賞(名古屋、日本)
- 1998 「第9回国際タペストリー・トリエンナーレ」大賞、美術 館賞(ウツシ ポーランド)
- リリアン・エリオット賞(フォートコリンズ、アメリカ)
- 2000 「第9回国際レース・ビエンナーレ」ファビオラ女王大賞(ブリュッセル、ベルギー)

パブリックコレクション

Museum of Art and Design(旧American Craft Museum) (ニューヨーク、アメリカ)
Museum of Costume and Lace (ブリュッセル、ベルギー)
感覚ミュージアム(岩出山、宮城) 西武百貨店(有楽町、東京) 福島県立美術館(福島、福島)



紙撚

こより

紙を使った制作は、1992年くらいから始まりました。そのきっかけは、結婚にありました。

生活の場は東北の山間部にある禅寺。結婚の時期も丁度戦後50年頃で、法事が多くとても忙しい毎日でした。日々何か形あるものを創るわけではなく、思考するでもなく、ただただ大勢の方の接客と境内掃除・食事支度に明け暮れておりました。

そして、結果的に殆ど外出することもない生活になっていました。そうしてみると、外から来る人や物の動線みたいなものを感じはじめたのです。毎朝必ず届く新聞、郵便物やいただきもの等、途切れることなくやって来ては消えていきます。私の周りでいつも物が動いているのです。

もともと布を使って制作していたからでしょうか、繊維素材の動きが気になり、お供え物の包装紙に目がとまりました。この使用済み包装紙達はとても丈夫で色が豊富でした。

この紙を使って何か創れないか、と考えていましたが、集中力が必要な作業、場所を取る作業では、私がこの寺で暮らすということが成り立たないのです。そこで考えたのが、単純な作業の繰り返し。最初はどうか見当もつきませんでしたが、日記を付けるように、一曜々々の私を刻みこむように紙撚を作りはじめました。紙撚なら大量に作っても保管に場所を取らない、一作業が十数秒でキリがつきます。というわけで、その時の条件を満たしたかたちでの制作が始まったのです。さまざまな処からやって来た紙が私の手の中で撚られ、そしてその作られた紙撚が手を離れ、新たに人と出会ったり、また私に語りかけるようにもなりました。

「我々はあなたの時間そのもの、心そのもの、そして様々な出会いそのものなのです」

「私達の中にはあなたの全ての不平も、祈りも夢も、つまりあなた全てが含まれているのです」

それらはけっして一様でなく特定の私を表しているのではなく、全ての人々に共通する何ものかをあらわしているように感じました。作品を制作するということは、生命を維持するには全く不要の行為です。しかし私にとっては、日々のあらゆる自分を確認する行為であり、またそれを発表するのは、出来上がった物を見て頂くというよりも、むしろ今見てくださっているあなたと「共鳴したり、共振したり」したいという思いからなのです。

- | | |
|---|--|
| <p>1993 ファイバーアート展「糸と布の可能性」(福島県立美術館、福島)
日本のファイバーアート展「光と影」(ノースダコタ州立美術館、アメリカ)</p> <p>1998 第9回国際タペストリー・トリエンナーレ(ウッジ・染織中央美術館、ポーランド)</p> <p>2000 常設作品として出品(感覚ミュージアム・香の森、宮城)
第9回国際レース・ビエンナーレ:現代美術(衣装とレースの美術館、ベルギー)</p> <p>2001 第9回国際レース・ビエンナーレ(ハイデルベルクテキスタイル美術館、ドイツ)</p> <p>2002 個展(喜多方市美術館、福島)</p> <p>2003 個展(衣装とレースの美術館、ベルギー)</p> <p>2005 A MUSE LAND展(北海道立美術館、北海道)
The Common Garden展
(Manggha Museum /Central Museum、ポーランド)</p> <p>2006 国際ペーパー・ビエンナーレ・オランダ(Coda美術館/Rijswijk美術館、オランダ)</p> <p>2007 東京芸大創立120周年記念公演
オペラ「白狐」岡倉天心作 舞台に設営(旧東京音楽学校奏楽堂、東京)
2人展(TOPOGRAPHIE DE L'ART、フランス)</p> | <p>2009 博物館から覚醒するアーティスト達(福島県立博物館、福島)
妙心寺展 梵鐘設営のための装飾(九州国立博物館、福岡)</p> <p>2010 25年目の贈りもの コロー・ルノワールから郷土の美術家まで
(福島県立美術館、福島)
NEW MATERIAL WORLD(Sheidon Museum、Neburasuka、アメリカ)</p> <p>2018 "BUDDYZM" JAPAN Art Festival(Manggha Museum、ポーランド)
Islamic Art Festival "21th Session"-"HORIZON"
(シャルジャ国立美術館、アラブ首長国連邦)</p> <p>2020 個展「雑華」(郡山市立美術館、福島)</p> <p>2023 個展「おのずから」(デザイン・クリエイティブセンターKIITO 兵庫)</p> <p>2024 個展「御春 ON HARU」Art and Classic
三春交流館「まほら」開館20周年記念展(福島)</p> |
|---|--|

関連イベント

ギャラリートーク

[日時] 9月7日(土) 14:00~15:00 [会場] 匠の聚ギャラリー ◎参加費・無料、予約不要

作家による作品解説をギャラリーにて行います。

展示作品や作家の魅力にふれていただく機会ですので、是非ご参加ください。

展覧会によせて

一本一本手作業で膨大な時間を要しながら捻って作られる紙燃。

その十数万もの紙燃を幾重にも重ね独自の世界を創作される石田氏、これまでの作品は国内外で受賞を重ね個展も多く開催されております。見る者を魅了する幻想的で美しい作品は、展示会場を活かした光と影が織りなす空間で、会場毎に特性を捉え制作されます。

源流にこだわりを持ち水源地の村づくり活動に取り組まれてきた川上村と「飲水思源」を経営の指針としている奈良トヨタグループが共鳴し、「水」をテーマに今、この時をとらえた作品を制作して頂きます。

現代美術作家・石田智子氏による作品世界と「源流」の大切さを、広く多くの方々に感じていただける機会としてぜひ会場へお越しいただき、ご高覧いただければ幸いです。

奈良トヨタグループ 代表 菊池 攻

石田智子 展覧会

『水潺潺』(みずせんせん)

2024年9月7日(土)~10月6日(日)

匠の聚ギャラリー

<https://takuminomura.gr.jp>

開館時間: 10時~17時 毎週水曜日休館

〒639-3541 奈良県吉野郡川上村東川135

TEL 0746-53-2381

ACCESS

- 大阪から約2時間
- 国道169号線を南へ走行し、五社トンネルを抜ける
- 奈良市から約1.5時間
- 針インターから国道369号線を南へ走行、約1時間
- 郡山インターから約1.5時間
- 橿原市から約1時間
- 和歌山市から約2.5時間

